

過去に類を見ない、ものづくり補助金「デジタル枠」の採択決定事例

Epson Cloud Solution PORTが拓く業界のDX化

サイン業界でも大判プリンターや各種加工機の導入で活用される、経済産業省の「ものづくり補助金」。2022年には、DX（デジタルトランスフォーメーション）に取り組む事業者を支援する「デジタル枠」が新設され、一律 2/3 という補助率の高さに期待を寄せる企業も多い。しかし、コロナ禍の経験を経て、業界で DX 化を押し進めるのがいかに困難か、実感した人は少なくないだろう。製作・施工の現場仕事をリモートでこなすのは難しく、商談ひとつとってもオンラインでは円滑に進まなかった。当時、「テレワークは半ば、従業員を休ませるため」と割り切っているとの声も管理職からは聞こえ、DX 化を推進するに当たっての課題ばかりが浮き彫りになった。

そんな背景を抱えるのにも関わらず、展示・イベント企業のディスカバリー・コアが、ものづくり補助金 2023 年 14 次

公募の「デジタル枠」で採択決定。レジインク搭載機「SC-R5050L」3 台と純正測色器「SD-10」3 台に加え、ラミネーター 2 台の設備投資 2/3 が補助対象となった。これは業界全体を見渡しても非常に稀なケースで、初の事例に該当するのではないか。この規模の設備投資が「デジタル枠」で採択されるほど、Epson Cloud Solution PORT による DX 化は分かりやすかったのだろう。サインディスプレイに馴染みのない審査側にも、理解を得られたのだと考えられる。

ここからは Epson Cloud Solution PORT だから成せる DX 化によって、見事補助金の採択を受けたディスカバリー・コアのサイン事業部・制作チーフディレクター、齊藤憲司氏に詳しく話を聞く。併せて、主力機として稼働するエプソンプリンターの持つポテンシャルについて、その印象をインタビューした。

導入前に比べて約 3 倍の業務効率化を達成 5 台分のインクジェット出力を PC ひとつで完結



サイン事業部・制作チーフディレクター
齊藤憲司氏

—まず貴社の概要や特徴を教えてください

展示・イベントの企業として、企画提案から施工撤去まで「一気通貫」での提供を強みとしています。現代は日本でも広く活用される展示システム「オクタノルム」ですが、当社では 1993 年にドイツまで直接赴いて国内でいち早く購入するなど、その行動力の高さには自信を持っています。私の所属するサイン事業部は、一気通貫の体制をより強化する目的で 2010 年に立ち上げ、展示装飾

のサイン類を全て内製化しました。

—次に、現在保有する大判プリンターについてお聞きします。以前から SC-S80650 も稼働されているようですが、そちらの評価はいかがでしょう

保有する IJP は、2023 年 10 月に新設したレジインク搭載プリンター「SC-R5050L」3 台をはじめ、エコソルベントインク搭載プリンター「SC-S80650」2 台に加え、ロール to ロールの UV 機と卓上 UV 機が 1 台ずつの合計 7 台になります。

SC-S80650 は色が思い通りに表現でき、ノズル抜けもなく安心して扱えています。導入当初、ちょうど芸能人の顔を印刷する仕事を抱えていて、既存機では到底納品できるレベルには達せませんでした。x-rite 社の測色器を使っても色合わせが上手くいかなかったなか、SC-S80650 はその親和性も高く、とても助けられたのを覚えています。

色の再現性は水性染料と比べても引

けを取らず、出力速度も動き出しが早いのでトータルで見れば、ミドルレンジとして最速クラスではないでしょうか。

—続いて、SC-R5050L を新設した背景を聞かせてください

展示装飾に欠かせない加工紙（経師紙）への出力を目的に、SC-R5050L を新設しました。と言うのも、当社で最も扱う加工紙は印刷向けではなく、インクの受層も備えていないので、溶剤ではプリントできません。UV などでもトライしてみたものの、当社では余り上手くいきませんでした。個人的には、加工紙は水性レジインク系でしかきれいに出力できないと考えています。

さらに、SC-R5050L は 1 日当たり 150m もの加工紙を出力でき、これまで稼働していた他社機で 50m が限界だったのを考えると、約 3 倍の生産性向上につながっています。当社で多用する加工紙への出力を高速かつきれいに仕上げられるのが、最大の理由ですね。

加えて、メディアの設定を 50 個も保存しておけるのは大きいです。レジインクですから、ヒーターの調整がかなり影響するのと、さまざまな素材に出力するので、この機能は地味に嬉しいですね。毎回いちから入力する必要もなく、そのメディアの設定を探してボタンを押すだけで済むので、こちらも大幅な時短につながっています。

もちろん、従来機同様の稼働安定性はしっかりと継承されており、水性レジインク系では最も不具合が少ないと評価しています。水性ならではの粒状感も、パスの設定だけで十分抑えられます。そして、色の再現性やタイリング時の色差の少なさは申し分ないです。導入以来、SC-S80650 とともに当社の主力機として稼働してくれていますね。

—それでは、ものづくり補助金デジタル枠について、採択決定に至ったポイントはどこだったのでしょうか

やはり、複数台の大判プリンターを遠隔操作できる「Epson Cloud Solution PORT」でしょう。年明けから準備をはじめ、6 月末に結果が発表された 14 次公募で採択決定を受けました。最も評価されたのは、実機の近くにいらなくても遠隔で印刷・管理できる、Epson Cloud Solution PORT による DX 化の構築が分かりやすかった点だと考えています。

今までは、ソフトウェア RIP の画面を TeamViewer で全てつないで操作し、インク残量はモニターの前に監視カメラを

設置してチェックするなど、四苦八苦しながら複数台の IJP を私 1 人で管理していました。それが、導入によっていとも簡単に解決しただけでなく、今まで Excel に都度打ち込んでいた測色器の情報も残せるばかりか、Illustrator® 用のプラグインまで用意され、すごく楽になったと実感しています。

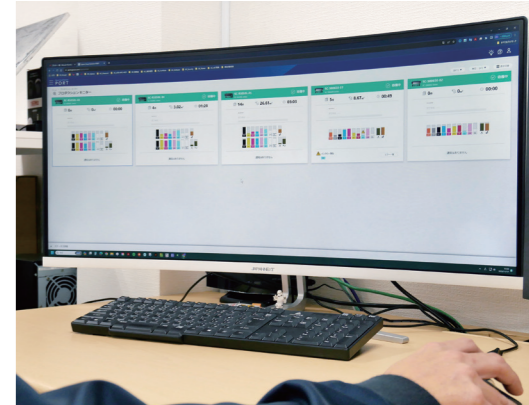
さらに、これまでのメディアやインクのコスト実績を集計してくれる、シミュレーション機能も重宝させてもらっています。瞬時にプリントコストを把握可能で、その場で顧客に見積もりを提示できますから、打ち合わせの内容を持ち帰って積算する手間がなくなりました。

一方、SD-10 を 3 台も購入した理由は、出力ルームだけでなく、現調などさまざまな場所で、社内外の連携をより効率化するためです。SD-10 は誰でも扱え、性能も群を抜いており、さらに一度測色したデータはクラウド上に保存できるので、いくつ持っけていても損はしないですよ。

このように Epson Cloud Solution PORT を軸とした DX 化は、採択する側にも意図をスムーズに理解してもらえたと思っています。それこそ、サイン業界の専門用語を並べても一般の方には理解しにくいですし、伝わらなければ意味がありません。大切なのは、大判プリンターの遠隔操作が可能になる上、付帯する業務のデジタル化まで実現する、そういった分かりやすさです。この強みが採択決定に貢献したと思っています。



レジインク搭載機「SC-R5050L」の設置シーン。同機ではグラデーションの階調も違和感なく滑らかな表現演出を実現する（右）



視覚的で分かりやすい UI 設計の「Epson Cloud Solution PORT」。各機のインク残量も、ひと目で確認できる

—現状、どれくらいの業務効率化が図れているのでしょうか

ざっくり言うと、導入前に比べて 1/3 程度の時間で、同じ業務量がこなせている印象です。つまり、1 日 3 倍の仕事ができるほどの効率化に成功しています。社外でも、PC やスマホのアプリを開いてさえいけば、リアルタイムで状況が把握可能ですので、安心してプリンターを稼働できます。今までですと、夜間にトラブルがあれば車で駆け付けていたものの、それも見える化によって未然に防げるようになりました。今後も Epson Cloud Solution PORT は進化し続けるでしょうから、もっと楽になっていくでしょう。究極、プリンターの前にいる時間が限りなくゼロに近くなると期待しています。

—最後に、今後の将来展望を聞かせてください

SC-R5050L でしか出力できない商材を探すなど、その性能を引き出していきたくて考えています。そして、さまざまなセッティングを事前に準備できる Epson Cloud Solution PORT の性能を生かし、未経験者であろうと誰が出力しても、同じクオリティを維持できるようにしたいです。最終的には、社外から全ての出力業務が完了できれば嬉しいですね。

エプソン販売株式会社

問い合わせ先：050-3155-8100
プリンター購入ガイドインフォメーション
受付時間：平日 9 時～17 時半（同社指定休日除く）

(注) Illustrator は、Adobe Inc. の登録商標または商標です